

総 評

審査委員長 大坪 明

今回のあすなろ建築賞には、例年に無く多数の応募があった。それは本賞が学生の皆さんの間に浸透してきた結果でもあろう。同時に、応募者の「自作を実現したい」と言う思いも伝わってくる。この様な状況に関しては、審査をする側としても嬉しい限りである。

今回の応募要綱には、維持管理の容易さや使い勝手の良さを大きな評価ポイントとするということが明確に提示された。それは一方では、学生達の自由な発想を萎縮させる危惧もはらんだものである。デザインをすることは、決して奇をてらうことではないが、そこに学生らしい若さや冒険心も欲しい。デザインには、今まで無かった新しい形態や、あるいは新しい使い勝手も含めて新たな価値観を提示する役割も持っていることは確かである。

しかし、「団地の集会所」という公的な施設の実施コンペであり、アイデアコンペや設計課題ではない。その上、実現されたものを利用するのも維持管理をするのも団地住民に任されると言う条件がある。つまりは、プロの施設管理者が居るわけでもなく、また素人が利用するというを十分に読み込んだ設計が求められているということでもある。上記の様なことをしっかり踏まえた上に、建築形態にまとめ、しかもそれは当該建築単体の内部の使い勝手を考えるだけでなく、周囲とどのように呼応するかということも併せて考えられている必要がある。即ち、要求条件や周辺条件と自らの考えを弁証法的に止揚し、新たな次元のものにすることが求められているのである。この様なことを確認しながら、夫々の作品を見ることにした。

ところで、今回応募された作品を総じて見ると、もちろん、受けてきた建築教育の期間の違いもあり、巧拙はないわけではないが、どの作品もそれぞれに上記の様なことを真剣に考えてくれていることが読み取れる。

岳本大樹作品（最優秀作品賞）

各室に必要な階高に合わせたプランニングが、造形的な明快さとともに整理されている点や、高さの違いを利用したハイサイドライトの活用、テラス部上部の庇の張り出しによる半屋外空間の形成等の点に、配慮が感じられて好ましい。惜しむらくは、配置上の角度が不明快な点であり、団地内通路に沿った配置にして、テラス部への通路からのアプローチが容易に出来る様な配慮が欲しかった。

上門達彦作品（優秀作品賞）

機能配置が明快なプランである。デザイン的にも列柱を持った水平庇が全体を引き締めている。通路側の庇下部が更に広く半屋外空間が十分に設けられる様な配慮が欲しかった。また、通路と角度を持った配置は、前面空間の使い方の提案も併せて提示されていればなお良かった。そうでないなら、通路に平行な方が配置は明快であろう。

久保田伸次作品（優秀作品賞）

高校生の作品としては、プランニングが明快で、集会室の外部への開放の仕方も適切である。出来得れば外部空間との呼応関係は、庭部分に対するだけでなく、人通りが期待できる通路側との関係も構築する工夫が欲しかった。また、庇の設置が無い点などは、改善の余地がある。

谷口弘一作品（優秀作品賞）

動線が短く機能的にも明快に分離されている。造形的にも大空間とそれ以外が対比的に扱われた処理は好感が持てる。配置計画は、敷地北側に建物を寄せ、南を開放的に扱っているが、それは南庭部分をどの様に整備するかが問われることにもなる。一方、開口部上部における庇の設置が無い点や、団地内通路と施設内との呼応関係が不十分な点など、課題も見受けられる。

清田哲平作品（佳作）

玄関を挟んで明快に機能分離している点は判り易いし、集会室が半屋外を介して団地内通路と接する点も評価できる。惜しむらくは、キッチンや食事の場がそれに接して半屋外も含めた使い方が想定されていれば、なお良かった。

難波佑馬作品（佳作）

玄関を挟んで明快に機能分離している点は判り易く、使い勝手も良い様に見受けられる。しかし、団地内通路に面して水回りを含めて壁が多く、施設内と団地内通路との間での呼応関係がづくりにくい点が課題である。デザイン面でも一層の工夫がほしい。

宮崎翔太作品（佳作）

団地内通路に平行に配置され、外部に十分解放された集会室は、付属する半屋外空間にもにぎわいが漏れ出してきそうで、十分に機能する様な期待感がある。一方、動線部分が半屋外である点は、高齢者の利用が多い点を考えると、「？」でもある。

小西 明作品（奨励賞）

応募案の中では、造形的意図を明確にしており、比較的チャレンジ精神の旺盛な作品と言える。しかし、現実には部屋の形状や動線、あるいは各部の収まり等を考えると、実施には向かない点が多く見受けられた。今後に期待したい作品である。

庄司竜太作品（奨励賞）

周辺の状況に鑑み、コートハウスの外部空間であっても閉じられた中に一つの宇宙を創りたいという意図は理解できる。しかし、どの程度まで閉じられるかは吟味される必要がある。団地内通路等と本施設との間での呼応関係が形成されることも望まれる。また、高齢者の多い状況から、内部動線がオープンエアな点も課題である。